

BOOK

本

街の本屋さんが「今月推したい1冊」をご紹介します。

はわが人生の「師」なり

— さらに読んで面白い 音楽アーティストが紡ぐ日常 —

うれしい悲鳴を
あげてくれ



いしわたり 淳治

うれしい悲鳴をあげてくれ

著者：いしわたり 淳治
出版社：ちくま文庫
定価：780円＋税

ロックバンドの「スーパーカー」(2005年解散)の元ギタリストで、現在は作詞家・音楽プロデューサーとして活躍されている、いしわたり淳治さんの小説・エッセイ集です。

さすが、アーティストだけあって、目のつけどころが一味違い、楽曲を紡ぐように描かれた文体は新鮮です。日常生活での笑える出来事や、ゾクッとするオチが待っている物語など、小説とエッセイが章立てして収録されています。

私がとくに気に入っているのは、「あくびとファンタジーの考察」というエッセイ。著者が友人たちと明け方まで飲み会をしている一幕で、あくびをした友人に対して「なぜあくびをしたのか」という討論が始まります。「あくび線」という日付変更線みたいなものが漂っていて、それが鼻先に来るとあくびが出るという理論など、それぞれの考えを大人たちがまじめに討論しているものです。ただのあくびを色んな切り口から見えています。

私たちが普段の生活で見ているもの、気にしているものは、実は氷山の一角でしかなく、ちょっとでも視点を変えたら日常はもっと濃密に感じられるのではないのでしょうか。そんなことを考えさせられた1冊です。

今月の推薦者



紀伊國屋書店 札幌本店
富田 迪子 さん

今こんな本が売られています

紀伊國屋書店 札幌本店
売上ランキング
(期間:1月1日~1月31日)

文芸書 売上ベスト5

1位	ペテロの葬列 / 宮部 みゆき (集英社)
2位	昭和の犬 / 姫野 カオルコ (幻冬舎)
3位	舞台 / 西 加奈子 (講談社)
4位	原発ホワイトアウト / 若杉 洵 (講談社)
5位	穴 / 小山田 浩子 (新潮社)

CINEMA



DON JON R15+

3月下旬から公開(予定)

ユナイテッド・シネマ札幌 配給:KADOKAWA

クリストファー・ノーラン、マーク・ウェブ、スティーブン・スピルバーグなど、名だたる監督がこぞって起用し、人気、実力ともに今もっとも注目を集める俳優、ジョセフ・ゴードン＝レヴィット初監督作品。デビュー作のテーマに選んだのは「愛」。理想に燃える男が、理想の女性・恋愛・セックスを求め、全くタイプの違う女性二人と出会い、新たな価値観を見出していく姿をスタイリッシュでコミカルに描いた作品。ゴードン自身が主人公のジョンを演じ、共演にスカーレット・ヨハンソン、ジュリアン・ムーア、トニー・ダンザ、そしてカメオ出演でさらに超豪華キャストも登場。

チケットプレゼント

ご招待券を4名様にプレゼント。
32頁のアンケートにご記入の上、ご応募ください。